



東城信之介
「其のジカイ-second dimension-」



















東城信之介

×
Halca

東城さんに最初にお会いしたのは
ちょうど一年くらい前
作品展をされている時で
名前の印象と風貌、作品、思想
どれをとってもインパクトとギャップが交錯し、
最初に目が合った時の印象が
忘れられない人だった。

この一年を通して何度かお会いする機会があったが
東城さんの目はいつでも
最初にあった時と同じまっすぐな目だ。

東城さんの作品を見る中で見る者は
無意識にいつも自分の立ち位置を探してしまう。
場所を変えるたびに
浮かび上がったり消えてしまったりする虚像に
惑わされながらも
鎧びていく部分を見ながら
現実を探す。

それは故意に作り出されたモノであるが
息が吹き込まれ
生きた者のように過去と未来を作り出している。

私はふと街中にいる自分がよぎる。
本質を見いだせず戸惑う自分を。
綺麗なモノだけを見てみたいと思う小さな自分を。

東城さんは昔あったロッカーの鎧が
今でも気になっていると言った。

新しいモノに作り換えるという
美しさと虚無感は
誰しも持ち合わせているのではないか。

大きなアトリエの一室
壁にかかった新しい作品は
光を浴び静かに人を引きつけていました。

Halca

東城信之介展

「其のジカイ-second dimension-」

2013.9.29(sun)-10.19 (sat)

galerieH